

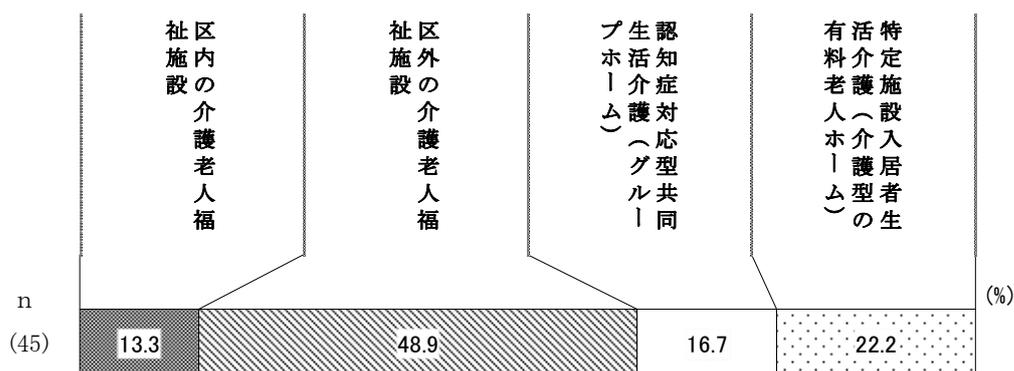
2-7 施設等調査

(1) 施設の概要について

① 指定を受けているサービスの種類

問1 貴施設で指定を受けているサービスの種類は、次のうちどれですか。(1つに○)

<図表365> 指定を受けているサービスの種類

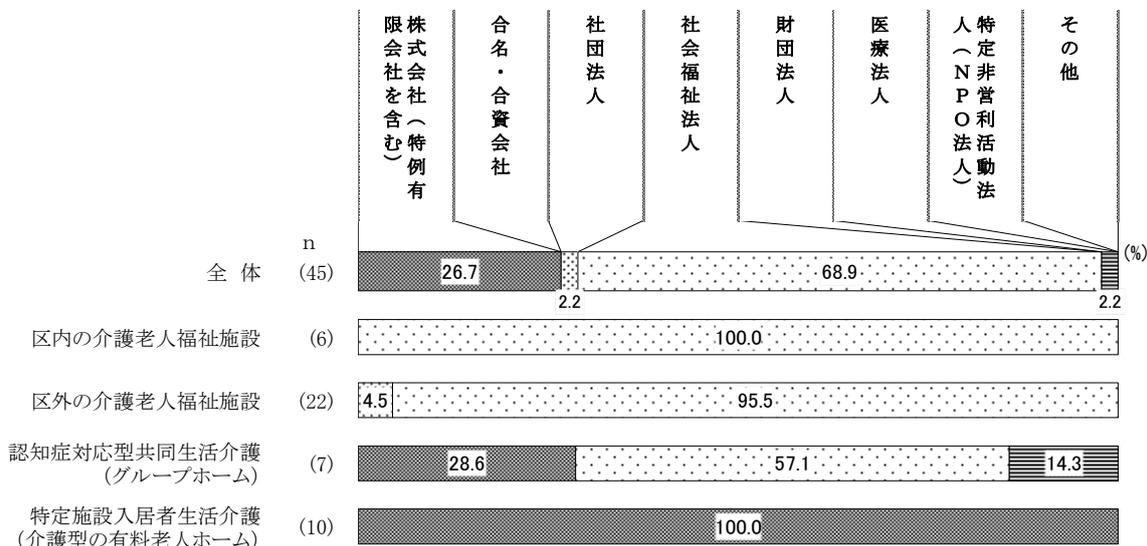


指定を受けているサービスの種類をたずねたところ、「区内の介護老人福祉施設」(13.3%)が1割台半ば近く、「区外の介護老人福祉施設」(48.9%)が5割近く、「認知症対応型共同生活介護(グループホーム)」(16.7%)が1割台半ばを超え、「特定施設入居者生活介護(介護型の有料老人ホーム)」(22.2%)が2割強となっている。

②施設の組織（法人格）

問2 貴施設の組織（法人格）は、次のうちどれですか。（1つに○）

<図表366> 施設の組織（法人格）（サービスの種類別）



施設の法人格をたずねたところ、「社会福祉法人」（68.9%）が7割近くと最も高くなっている。

③施設の職員体制

問3 11月1日現在の貴施設の職員体制（実人数）を、常勤、非常勤に分けてご記入ください。

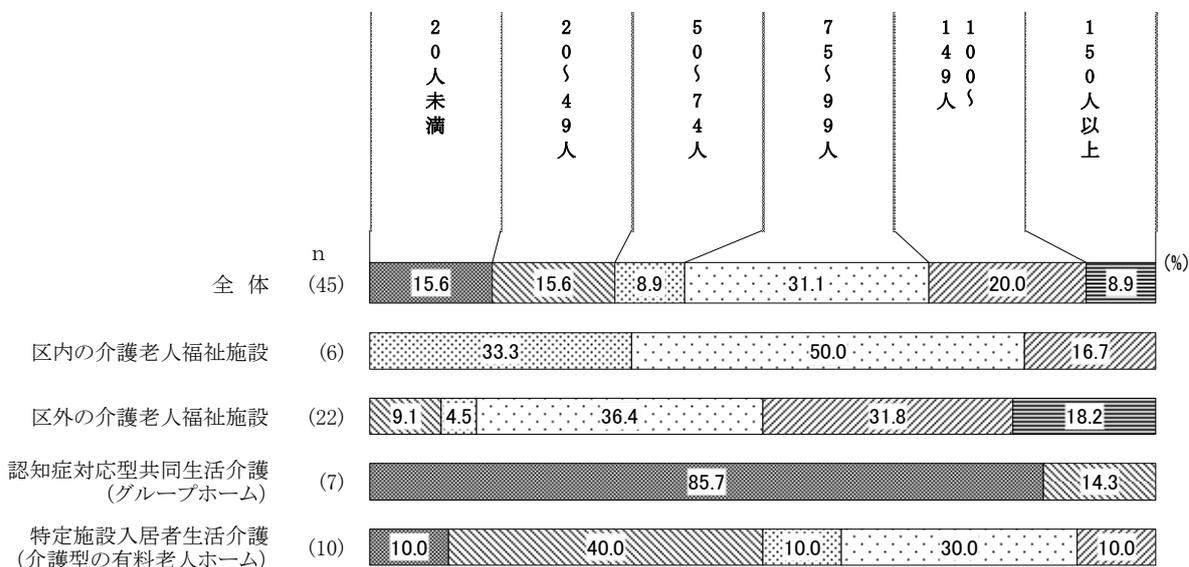
<図表367> 職員体制（平均人数）

	(人)	
	常勤	非常勤
医師	0.02	1.58
介護職員	23.95	11.93
看護職員	2.70	2.27
生活相談員	1.61	0.21
介護支援専門員	1.42	0.21
PT（理学療法士）	0.05	0.47
OT（作業療法士）	0.07	0.17
ST（言語聴覚士）	0.00	0.02
歯科医師	0.00	0.12
歯科衛生士	0.00	0.02
管理栄養士	0.64	0.07

④施設の定員数と入所（居）者数

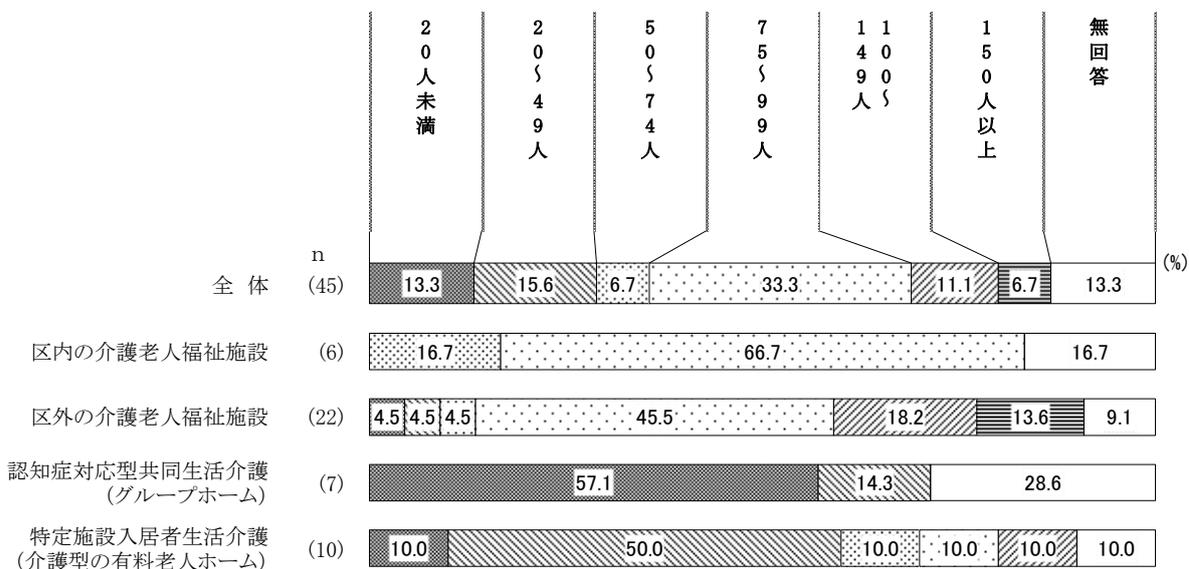
問4 11月1日現在の貴施設の定員数と入所（居）者（実人数）をご記入ください。

<図表368> 施設の定員数（サービスの種類別）



施設の定員数をたずねたところ、「介護老人福祉施設」では、区内で「75～99人」(50.0%)が5割、区外で「75～99人」(36.4%)が3割台半ばを超えて高くなっている。「特定施設入居者生活介護(介護型の有料老人ホーム)」では「20～49人」(40.0%)が4割を占める。

<図表369> 入所（居）者数（実人数）（サービスの種類別）



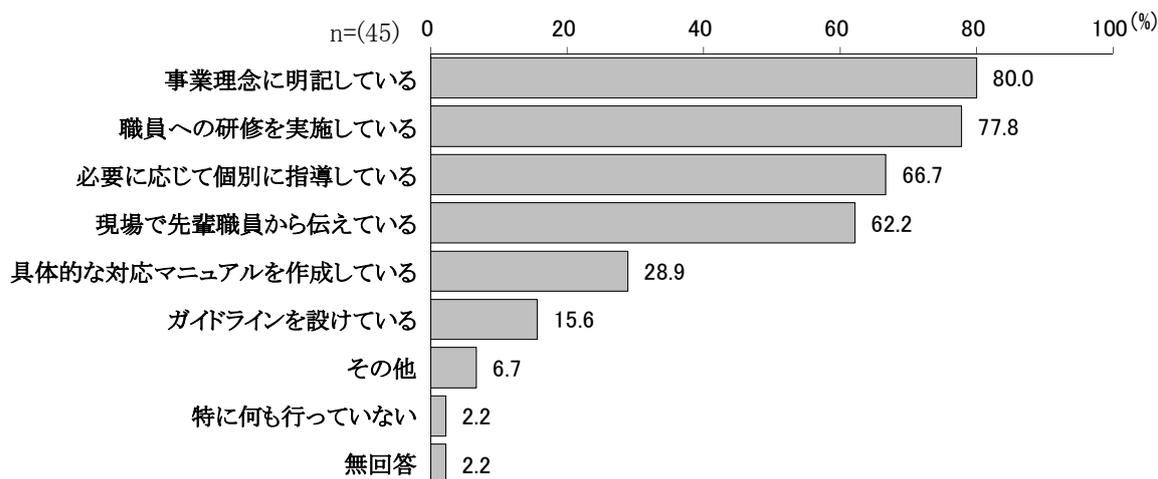
施設の入所（居）者実人数をたずねたところ、「介護老人福祉施設」では、区内で「75～99人」(66.7%)が6割台半ばを超えて、区外で「75～99人」(45.5%)が4割台半ばと高くなっている。「特定施設入居者生活介護(介護型の有料老人ホーム)」では「20～49人」(50.0%)が5割を占める。

(2) 尊厳の保持について

①入所(居)者の尊厳の保持についての取り組み

問5 貴施設では、入所(居)者の尊厳の保持について、どのような取り組みを行っていますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表370> 入所(居)者の尊厳の保持についての取り組み (複数回答)



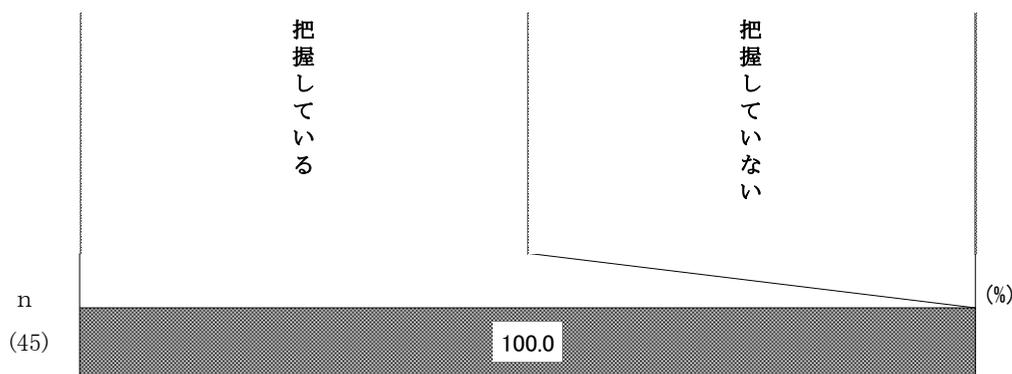
入所(居)者の尊厳の保持についての取り組みをたずねたところ、「事業理念に明記している」(80.0%)で8割と最も高く、次いで、「職員への研修を実施している」(77.8%)、「必要に応じて個別に指導している」(66.7%)の順となっている。

(3) 口腔管理の状況について

①入所(居)者の口腔状況の把握

問6 貴施設では、入所(居)者の口腔状況を把握していますか。(1つに○)

<図表371> 入所(居)者の口腔状況の把握

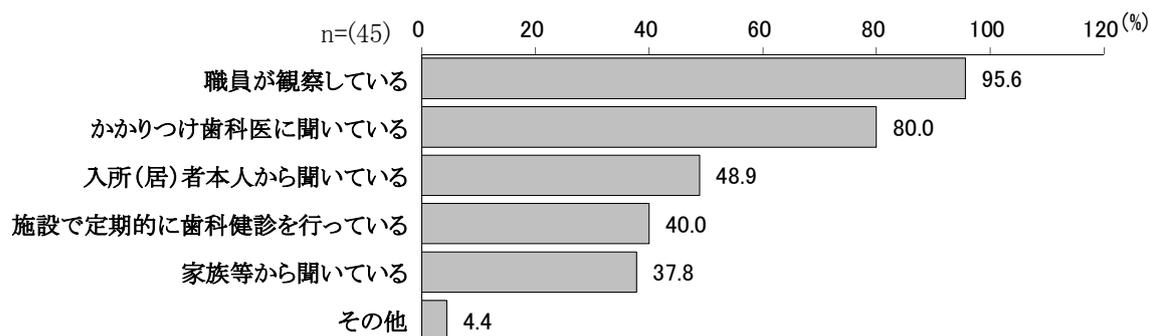


入所(居)者の口腔状況の把握についてたずねたところ、すべての施設で「把握している」(100.0%)となっている。

②口腔状況の把握方法

問6-1 どのように把握していますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表372> 口腔状況の把握方法 (複数回答)

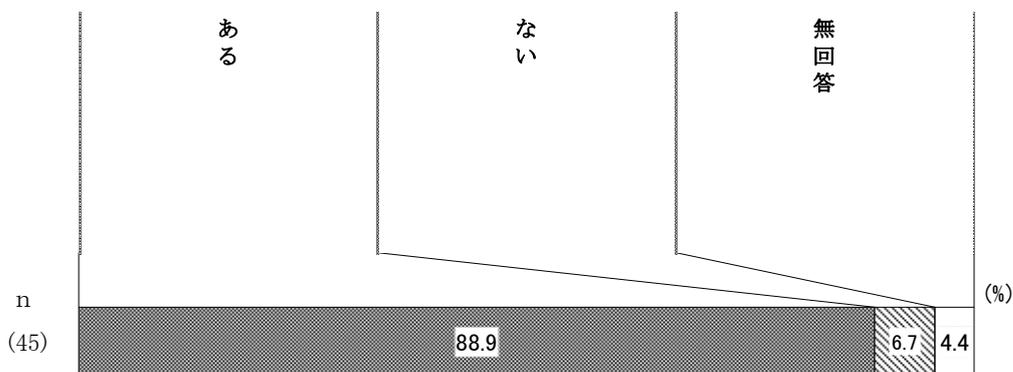


問6で口腔状況を把握しているところに、口腔状況の把握方法をたずねたところ、「職員が観察している」(95.6%)が9割台半ばで最も高く、次いで、「かかりつけ歯科医に聞いている」(80.0%)、「入所(居)者本人から聞いている」(48.9%)の順となっている。

③誤嚥や窒息について、不安や心配なこと

問7 貴施設では、入所（居）者の誤嚥や窒息について、不安や心配なことはありますか。
（1つに○）

<図表373> 誤嚥や窒息について、不安や心配なこと

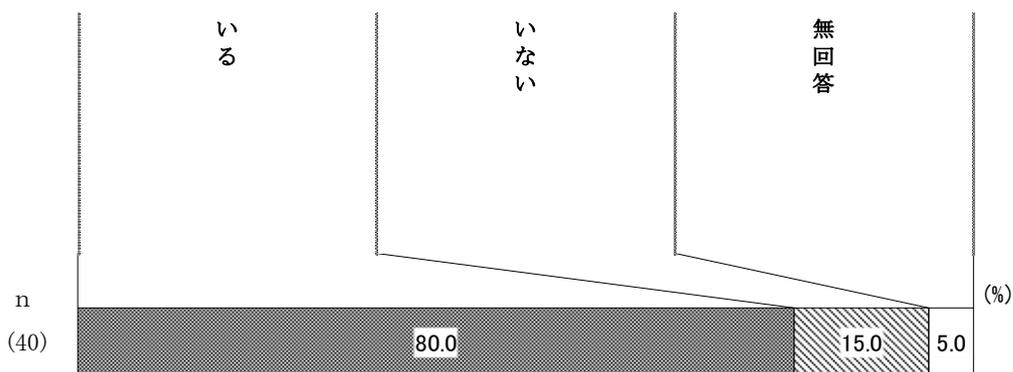


誤嚥や窒息について、不安や心配なことをたずねたところ、「ある」(88.9%)は9割近くとなっている。

④誤嚥や窒息について、相談できる専門医の有無

問7-1 相談できる専門家がいますか。（1つに○）

<図表374> 誤嚥や窒息について、相談できる専門医の有無



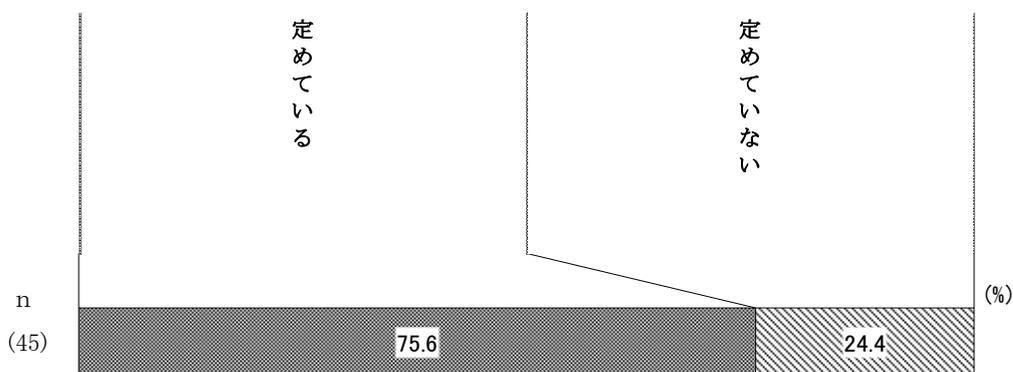
問7の誤嚥や窒息について、不安や心配なことがあるところに、誤嚥や窒息について、相談できる専門医の有無をたずねたところ、「いる」(80.0%)は8割となっている。

(4) 認知症の支援体制について

①認知症ケアに関する方針

問8 貴施設では、入所（居）者の認知症ケアに関する方針を定めていますか。（1つに○）

<図表375> 認知症ケアに関する方針

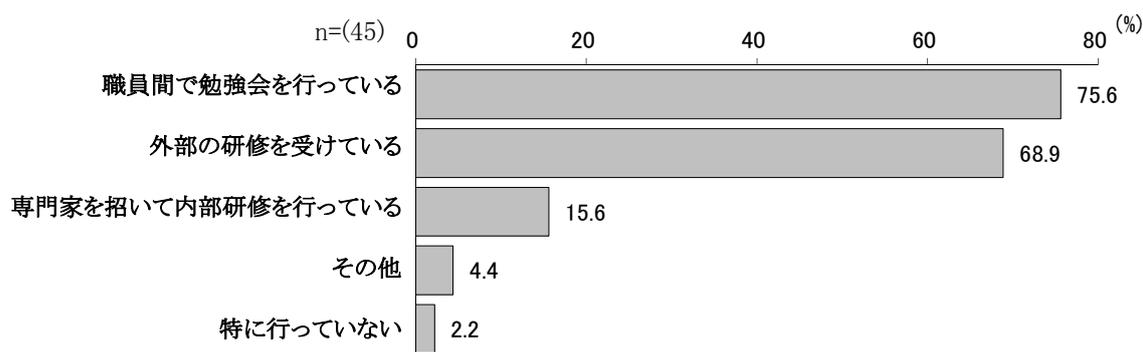


認知症ケアに関する方針をたずねたところ、「定めている」(75.6%)は7割台半ば、「定めていない」(24.4%)は2割台半ば近くとなっている。

②認知症への対応に関する職員の研修方法

問9 貴施設では、認知症への対応に関する職員の研修をどのように行っていますか。（あてはまるものすべてに○）

<図表376> 認知症への対応に関する職員の研修方法（複数回答）

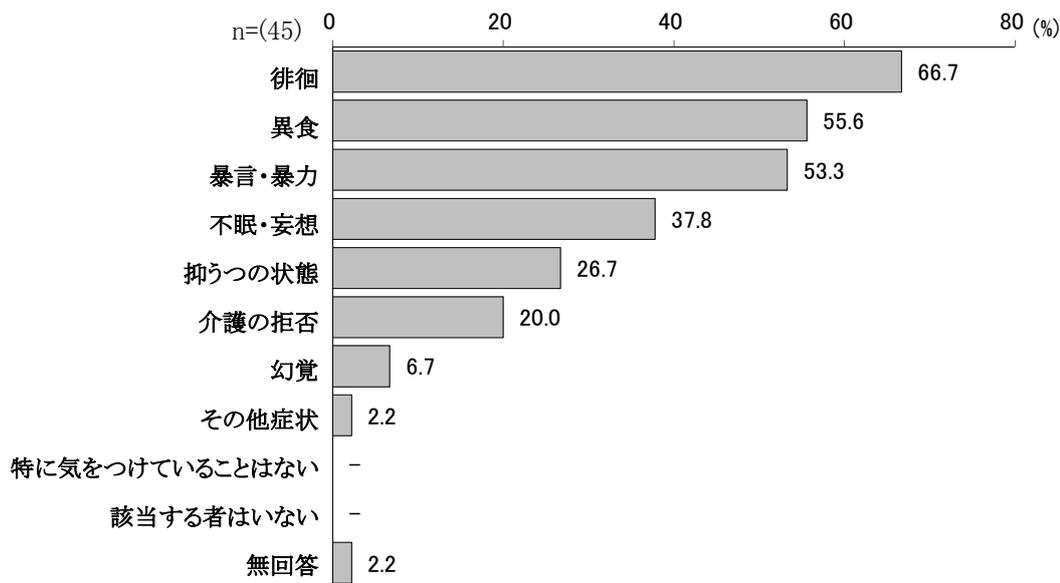


認知症への対応に関する職員の研修方法をたずねたところ、「職員間で勉強会を行っている」(75.6%)が7割台半ばで最も高く、次いで、「外部の研修を受けている」(68.9%)の順となっている。

③認知症の方のBPSD（行動・心理症状）への対応で特に気をつけていること

問10 貴施設において、認知症の方のBPSD（行動・心理症状）への対応で特に気をつけている症状は、次のうちどれですか。（あてはまるもの3つに○）

<図表377> 認知症の方のBPSD（行動・心理症状）への対応で特に気をつけていること（複数回答）

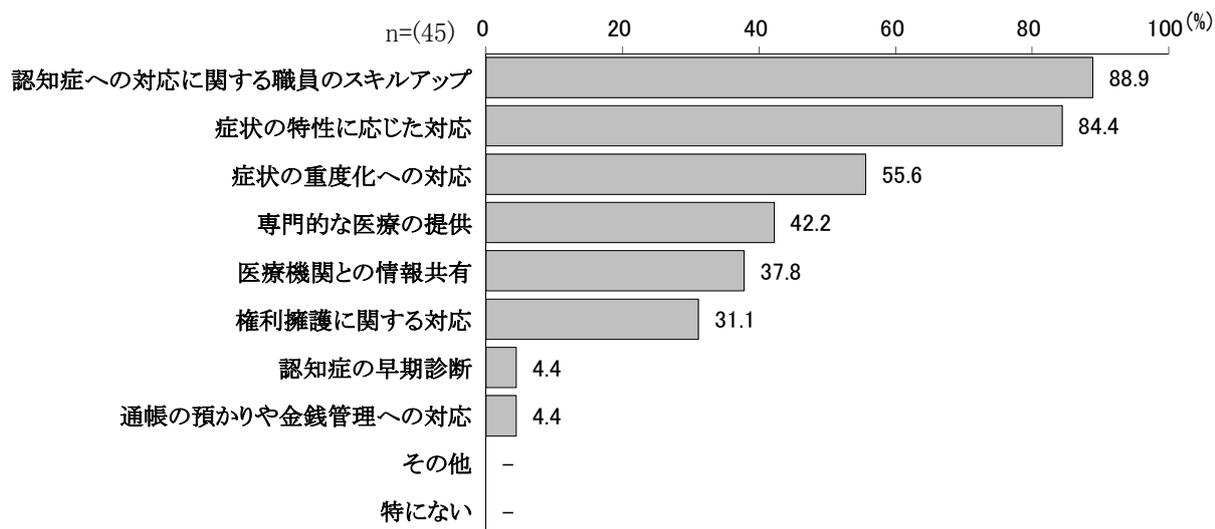


認知症の方のBPSD（行動・心理症状）への対応で特に気をつけていることをたずねたところ、「徘徊」（66.7%）が6割台半ばを超えて最も高く、次いで、「異食」（55.6%）、「暴言・暴力」（53.3%）の順となっている。

④認知症の方への対応で課題となっていること

問11 貴施設において、認知症の方への対応で課題となっていることは、次のうちどれですか。（あてはまるものすべてに○）

<図表378> 認知症の方への対応で課題となっていること（複数回答）



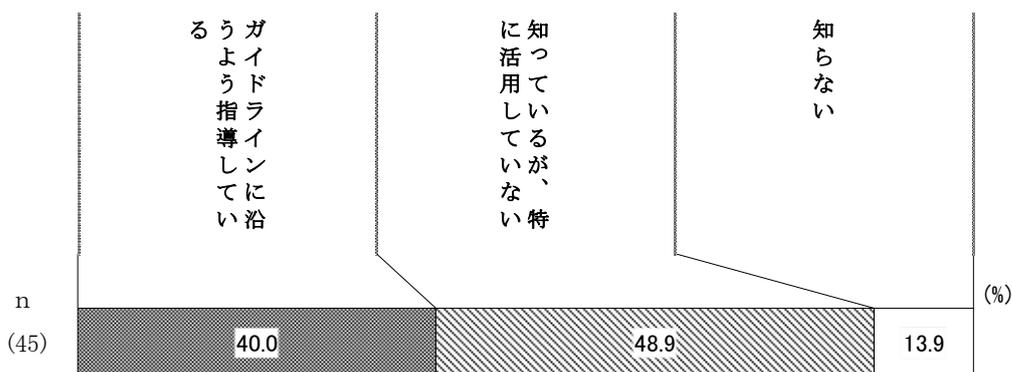
認知症の方への対応で課題となっていることをたずねたところ、「認知症への対応に関する職員のスキルアップ」（88.9%）が9割近くで最も高く、次いで、「症状の特性に応じた対応」（84.4%）、「症状の重度化への対応」（55.6%）の順となっている。

(5) 人生の最終段階における医療およびケアの方針について

①「人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン」について

問12 貴施設における、厚生労働省の「人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン」について、あてはまるものを選んでください。(1つに○)

<図表379> 「人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン」について

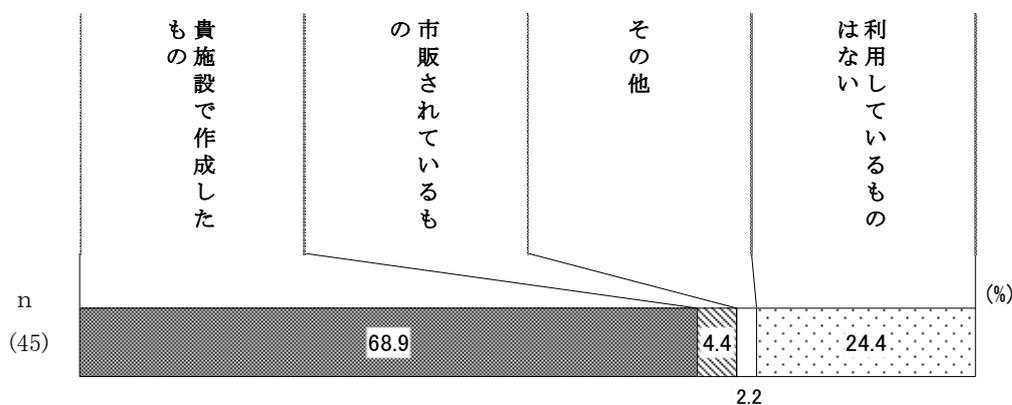


「人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン」についてあてはまるものをたずねたところ、「ガイドラインに沿うよう指導している」(40.0%)が4割、「知っているが、特に活用していない」(48.9%)が5割近くとなっている。

②利用している人生の最終段階における医療およびケアの手引きやマニュアル

問13 貴施設では、厚生労働省のガイドライン以外に、人生の最終段階における医療およびケアの手引きやマニュアル類でどのようなものを利用していますか。(1つに○)

<図表380> 利用している人生の最終段階における医療およびケアの手引きやマニュアル

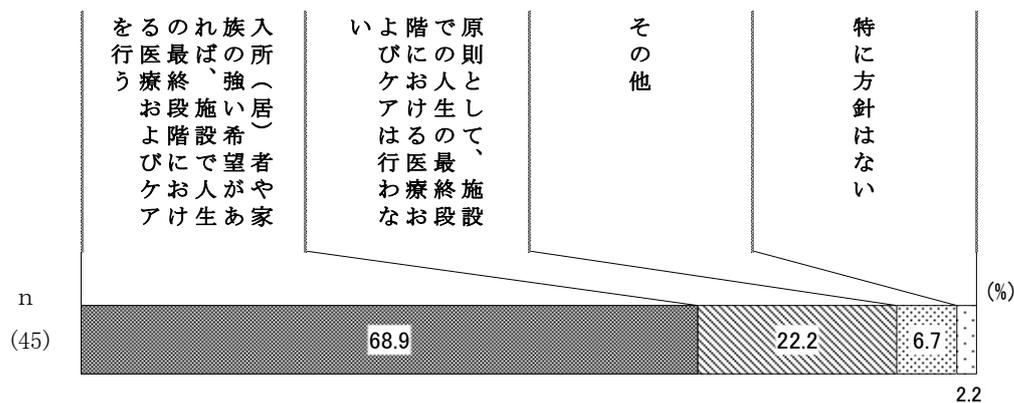


利用している人生の最終段階における医療およびケアの手引きやマニュアルについてたずねたところ、「貴施設で作成したもの」(68.9%)が7割近くとなっている。

③人生の最終段階における医療およびケアに関する方針

問14 貴施設において、現在の入所（居）者の人生の最終段階における医療およびケアに関する方針は、次のうちどれですか。（1つに○）

<図表381> 人生の最終段階における医療およびケアに関する方針



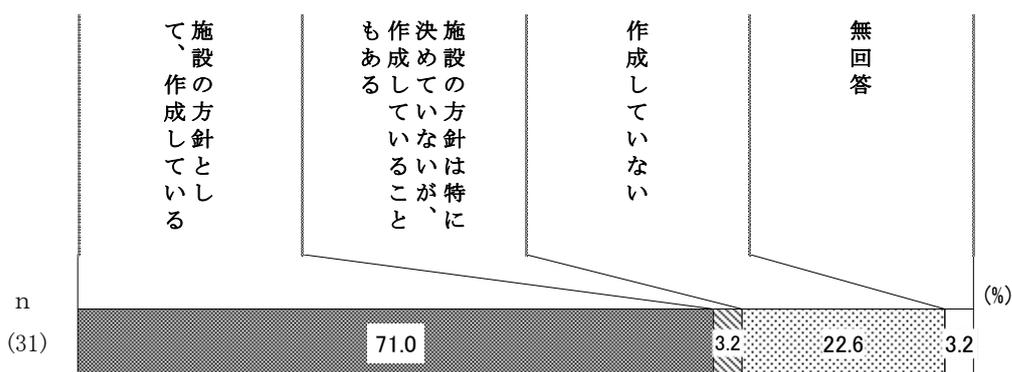
人生の最終段階における医療およびケアに関する方針についてたずねたところ、「入所(居)者や家族の強い希望があれば、施設で人生の最終段階における医療およびケアを行う」(68.9%)が7割近くとなっている。

(6) 人生の最終段階における医療およびケアの実際について

①事前指示書の作成状況

問15 貴施設では、入所（居）者が治療の選択について、自分で判断できなくなった場合に備えて、どのような治療を受けたいか（あるいは受けたくないか）、自分で判断できなくなった場合に備えて代わりに誰に判断してもらいたいかということを、あらかじめ記載する書面（事前指示書）を作成していますか。（1つに○）

<図表382> 事前指示書の作成状況



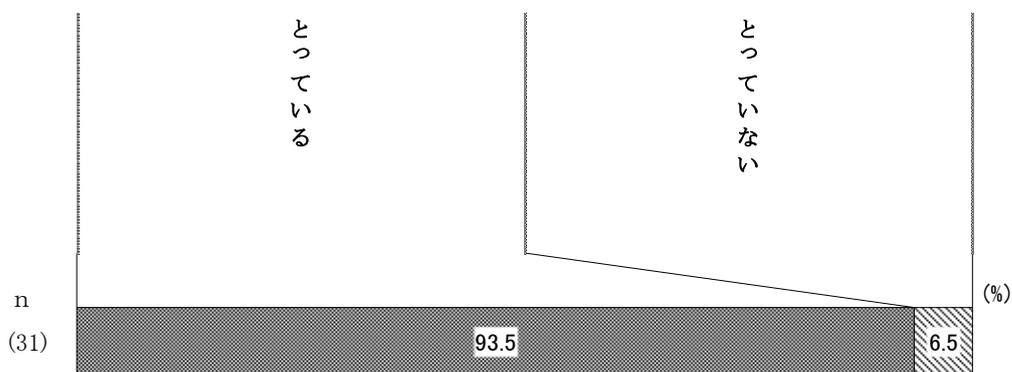
事前指示書の作成状況をたずねたところ、「施設の方針として、作成している」(71.0%)は7割強となっている。

(7) 人生の最終段階における医療及びケア体制及び実践について

① 夜間看護師のオンコール体制

問16 貴施設では、夜間看護師のオンコール体制をとっていますか。(1つに○)

<図表383> 夜間看護師のオンコール体制

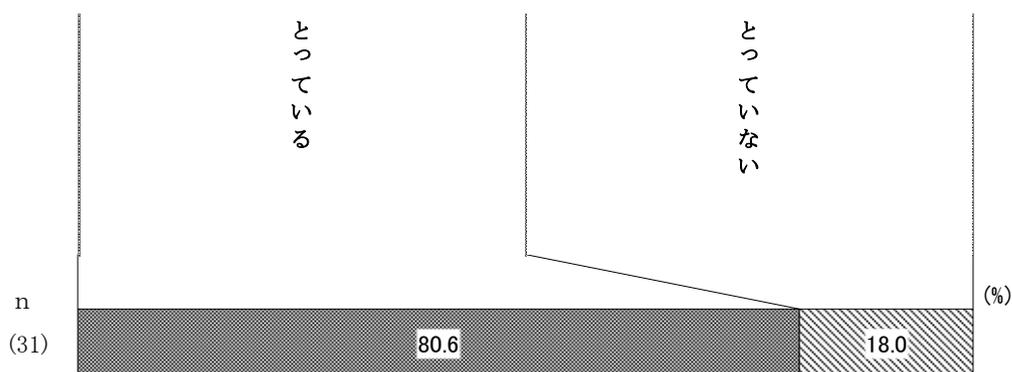


夜間看護師のオンコール体制をとっているかたずねたところ、「とっている」(93.5%)は9割台半ば近くとなっている。

② 医師との24時間の連絡体制

問17 貴施設では、医師との24時間の連絡体制をとっていますか。(1つに○)

<図表384> 医師との24時間の連絡体制

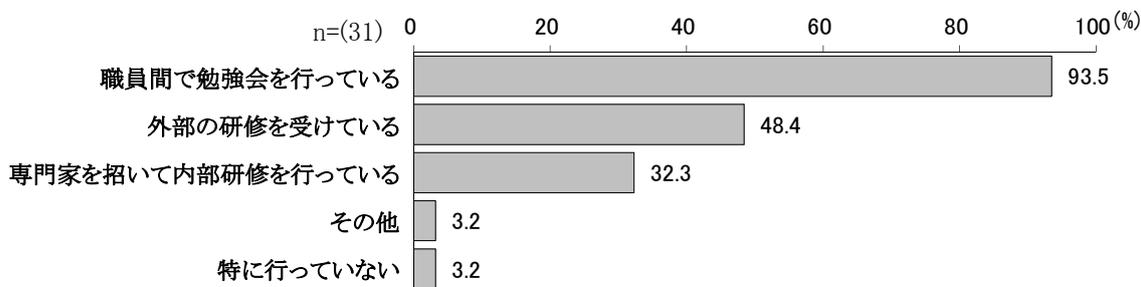


医師との24時間の連絡体制をとっているかたずねたところ、「とっている」(80.6%)は約8割となっている。

③人生の最終段階における医療およびケアに関する職員の研修

問18 貴施設では、人生の最終段階における医療およびケアに関する職員の研修をどのように行っていますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表385> 人生の最終段階における医療およびケアに関する職員の研修 (複数回答)

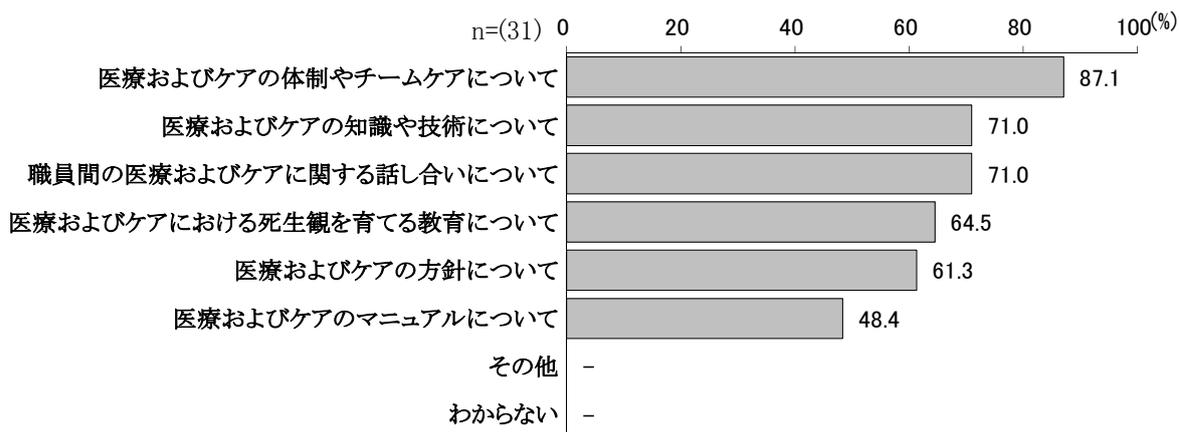


人生の最終段階における医療およびケアに関する職員の研修をどのように行っているかたずねたところ、「職員間で勉強会を行っている」(93.5%)が9割台半ば近くで最も高く、次いで、「外部の研修を受けている」(48.4%)の順となっている。

④職員向けに必要なと思う研修テーマ

問19 人生の最終段階における医療およびケアを行うにあたって、職員向けにどのような研修テーマが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表386> 職員向けに必要なと思う研修テーマ (複数回答)

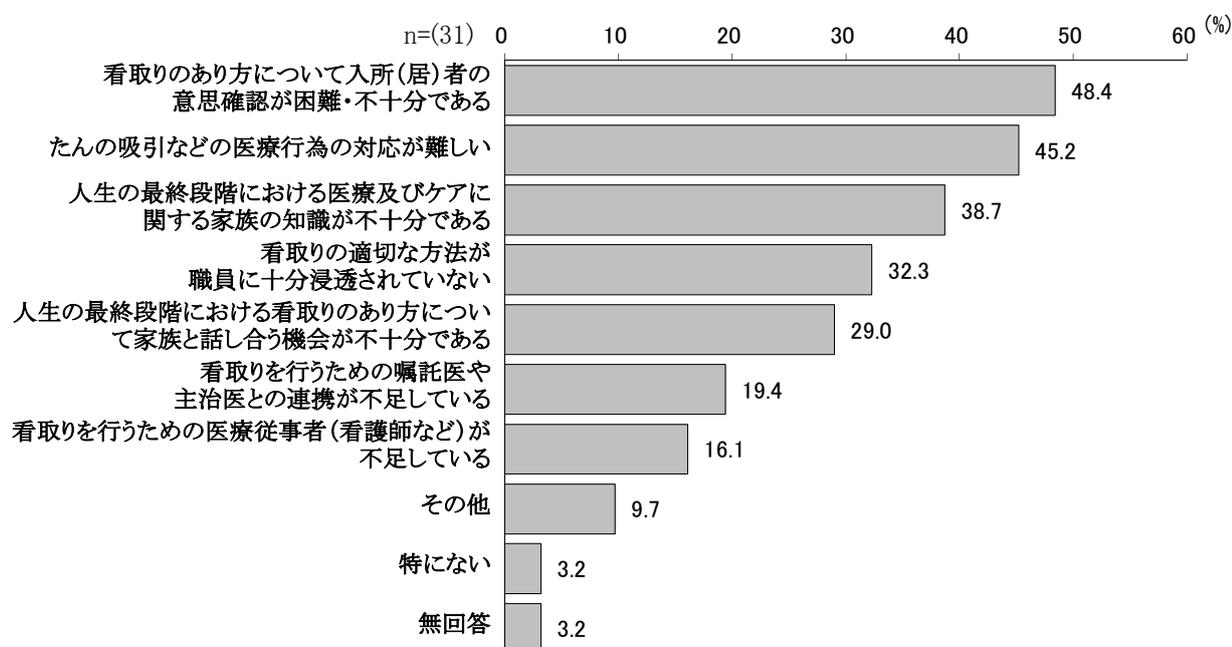


人生の最終段階における医療およびケアを行うにあたって、職員向けにどのような研修テーマが必要だと思うかたずねたところ、「医療およびケアの体制やチームケアについて」(87.1%)が8割台半ばを超えて最も高く、次いで、「医療およびケアの知識や技術について」及び「職員間の医療およびケアに関する話し合いについて」(ともに71.0%)の順となっている。

⑤人生の最終段階における医療およびケアを行うにあたっての問題点

問20 貴施設からみて、人生の最終段階における医療およびケアを行うにあたっての問題点は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表387> 人生の最終段階における医療およびケアを行うにあたっての問題点 (複数回答)

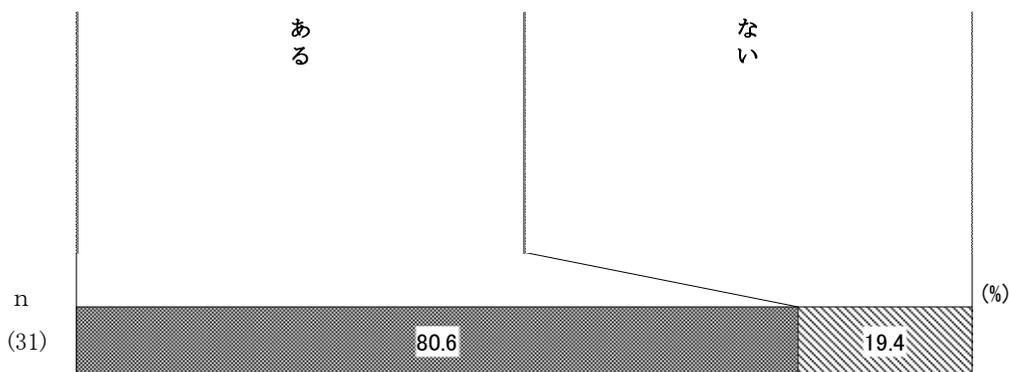


人生の最終段階における医療およびケアを行うにあたっての問題点をたずねたところ、「看取りのあり方について入所(居)者の意思確認が困難・不十分である」(48.4%)が5割近くで最も高く、次いで、「たんの吸引などの医療行為の対応が難しい」(45.2%)、「人生の最終段階における医療及びケアに関する家族の知識が不十分である」(38.7%)の順となっている。

⑥過去1年間で看取りをしたケース及び回数

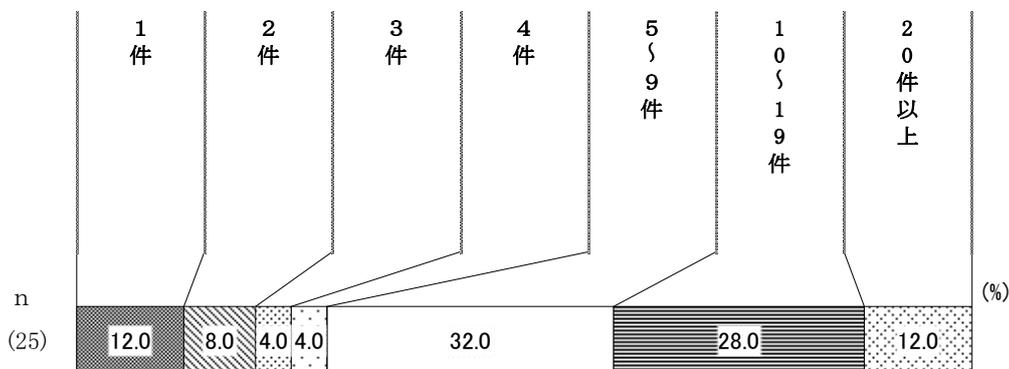
問21 貴施設では、過去1年間で、看取りをしたケースがありますか。ある場合は、その回数もご記入ください。(1つに〇)

<図表388> 過去1年間で看取りをしたケースの有無



看取りに立ち会ったケースがある場合

<図表389> 過去1年間で看取りをしたケースの回数



過去1年間で看取りをしたケースをたずねたところ、「ある」(80.6%)は約8割、「ない」(19.4%)は2割弱となっている。

「ある」と回答した人に看取りに立ち会った回数をたずねたところ、「5～9件」(32.0%)が3割強と最も高く、次いで、「10～19件」(28.0%)の順となっている。